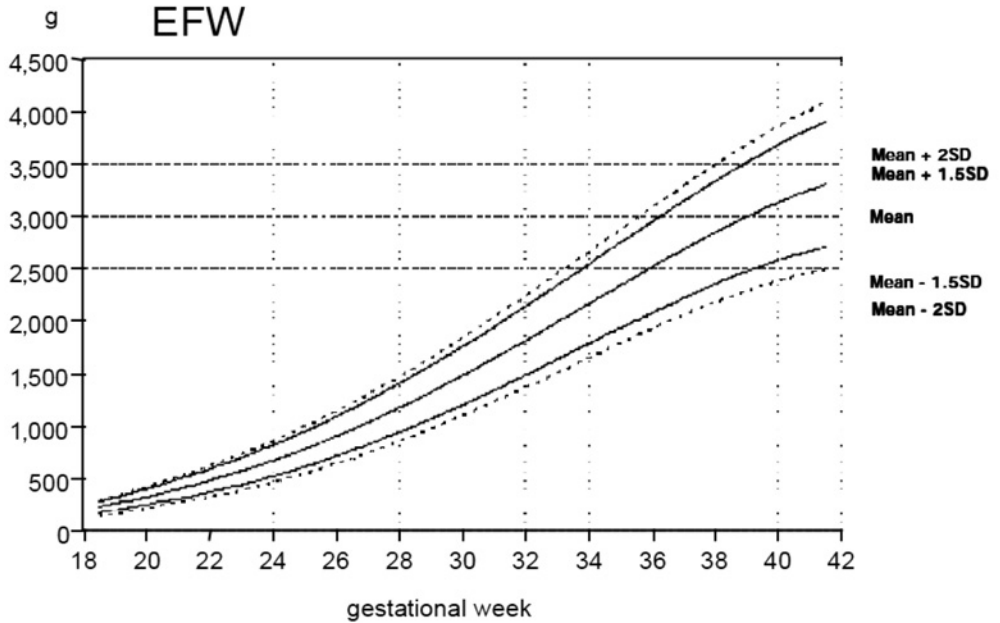


⑥胎児推定体重 (estimated fetal weight : EFW)

以上で得られた計測値より，下記の式を用いて算出する。

$$EFW(g) = 1.07 \times BPD^3 + 0.30 \times AC^2 \times FL$$

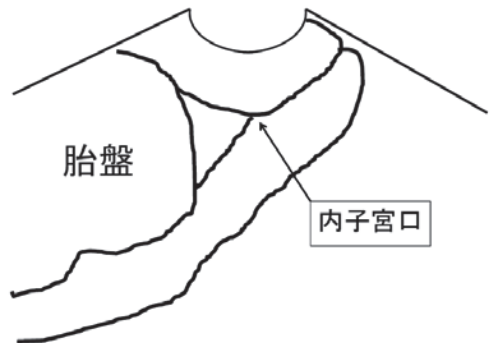
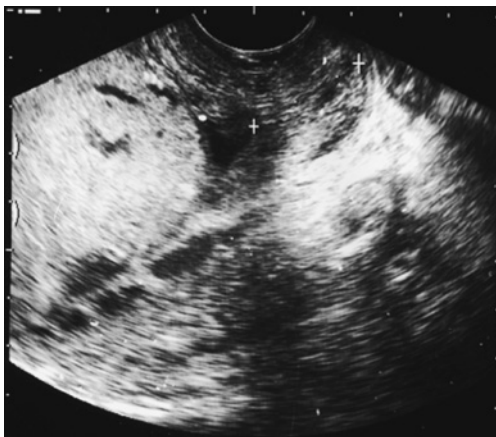


およその EFW の目安

- i) 妊娠27週で約1,000g
- ii) 妊娠30週で約1,500g
- iii) 妊娠33週で約2,000g
- iv) 妊娠36週で約2,500g
- v) 妊娠39週で約3,000g

3) 胎児付属物, 羊水

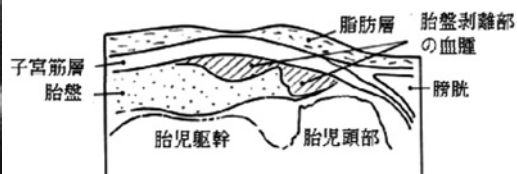
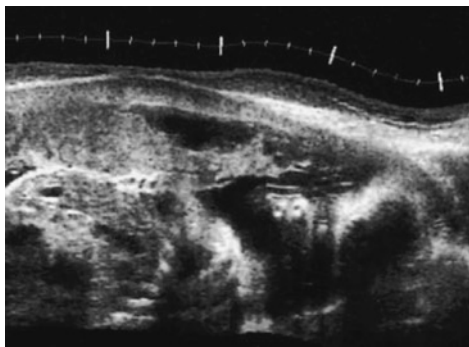
①前置胎盤



研修コーナー

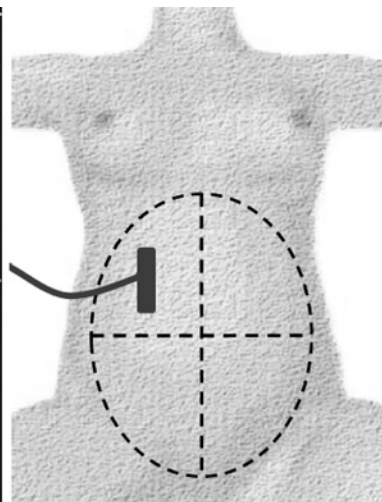
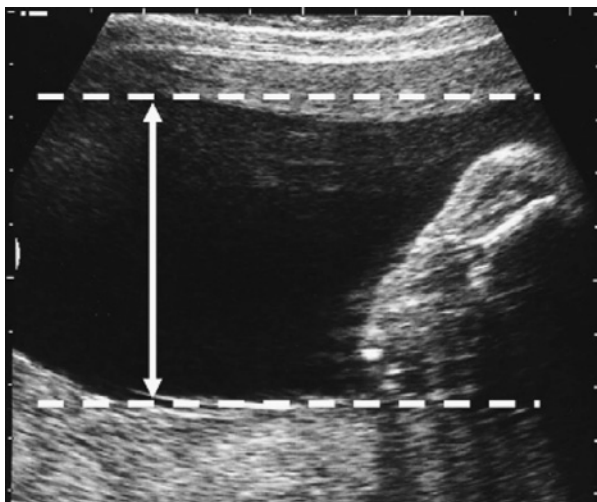
- i) 経膈超音波にて、内子宮口を覆う胎盤を認める
- ii) 妊娠中期に内子宮口付近にあった胎盤は、子宮峡部の伸展のため分娩時には上方へ移動していくことが多い(placental migration)
- iii) 妊娠20週以前の診断は不正確のため、妊娠21～22週以降に行う

②常位胎盤早期剝離



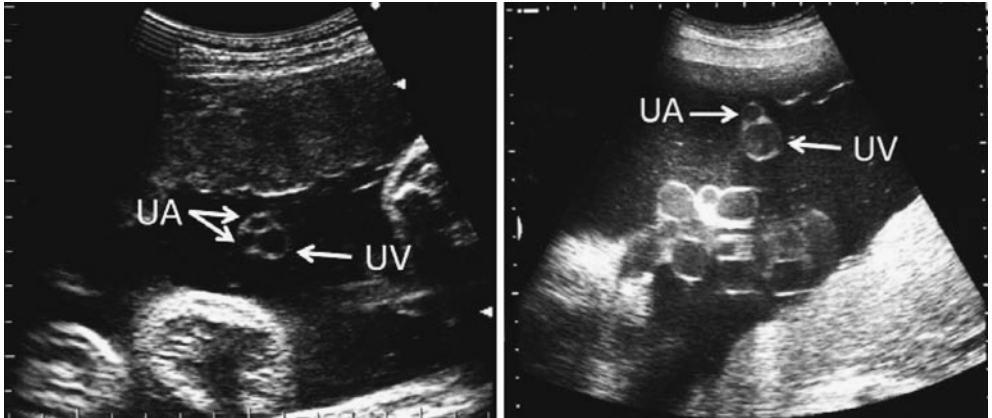
- i) 胎盤辺縁が剝離、あるいは胎盤が丸みを帯びている像や、胎盤の厚さが5.5cm以上に肥厚している像が早期診断に有用
- ii) 胎盤剝離から時間が経過し、重症化している場合、胎盤部や胎盤内の血腫像を呈する

③ Amniotic fluid Index : AFI



- i) 妊婦を仰臥位とし、妊娠子宮を腹壁体表面上で4分割する
- ii) 超音波プローブを妊婦の長軸に沿って床に垂直に立て、臍帯や四肢が全く含まれないように羊水腔を測定する
- iii) それぞれの羊水腔の最大深度(cm単位)の総和を求める
- iv) 5以下を羊水過少、25以上を羊水過多とする

④臍帯



- i) 臍帯には動脈が2本、静脈が1本存在する
- ii) 約1%の児に単一臍帯動脈が見られ、他の合併奇形(心奇形や腎尿路系奇形など)を有する可能性が高いと報告されている